

旧城域を区切るように、新しい道路も作られていきました。その内、最も大きなものが先ほど「一本の大きな道路」として出てきた大手通り（現在の大手モール）です。富山城の本丸と二之丸をつなぐ土橋、三之丸の屋敷の間の道、そして大手門跡を結んで作られました。

この通りは、県内で最も道幅が広く、昭和初期まで市役所や学校、病院、図書館、新聞社、郵便局、そして商店などが建ち並ぶ、富山のメインストリートとして賑わっていきました。大正2年には市内軌道（市電）も開通しています。



明治時代後期の大手通り

現在の大手モールです。総曲輪通りと交わる辺りから、城址公園の方向を見た風景です。

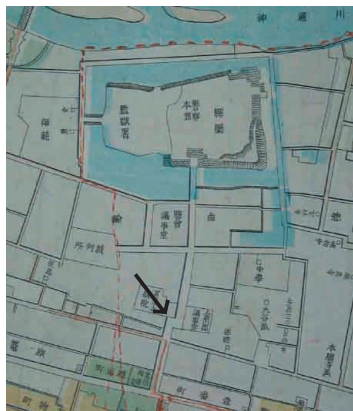


旧富山城払下図

赤色が新しく敷設された道路。地図の真中に縦に書かれているのが大手通りです。

### こんなこともありました その1

大手通りについて明治初期の地図を見ると、現在の市民プラザの辺り<sup>かぎ</sup>で鉤の手状に曲がっています。これは、大手門の名残です。大手門付近は、敵が侵入しようとした際に直進するのを防ぐため<sup>ますがた</sup>柵形になっていたのです。なお、この部分は、明治32年の大火の後、延焼防止や消防ポンプの進行のため、一部を拡幅して直線道路に改修されました。



明治25年  
拡幅前。鉤の手状に曲がっています。



明治41年  
拡幅後。直線道路になっています。